

調査報告

ウェルズファーゴ歴史博物館

白鷗大学法学部教授

岡田 順太

中央大学理工学部教授

磯村 和人

追手門学院大学社会学部教授

藤吉 圭二

はじめに

筆者グループは、2016年4月からスタートした「市民社会における記録とアーカイブズの意義に関する国際比較研究」（科学研究費基盤研究(B)16H03705）に基づいて、企業アーカイブズに関する研究に取り組んでいる。2018年2月3日～11日に実施したサンフランシスコでの研究調査のなかで、企業博物館であるウェルズファーゴ歴史博物館を視察したので、ここにその調査報告をまとめることとする。

調査報告をまとめるに当たって、企業アーカイブズがどのように捉えられ、そのなかに企業博物館がどのように位置づけられるかを議論した上で、調査報告をまとめ、そのインプリケーションを提示する。

1 企業アーカイブズとは

企業アーカイブズとは、シンプルに他の組織と同様に企業の活動と取引を記録したものと考えることができる (Logan, 2017)。企業の活動は多岐にわたるために、その結果として生まれ、企業内部に蓄積される記録も多

様性をもっている。アーカイブズというと、組織活動の過程で作成されるものという観点から、会議等の議事録や意思決定のプロセスのなかで生まれる文書などが主としてイメージされる。しかし、実際には、資料として保存されるドキュメントだけでなく、企業活動の生産物である製品なども含まれる。生産プロセスに見られる企業の知的営為の記録として、モノ資料もアーカイブズのなかに含まれる。したがって、モノ資料を中心に収集、展示される企業博物館もアーカイブズとして重要な位置を占めている (高島, 2008, 2009)。

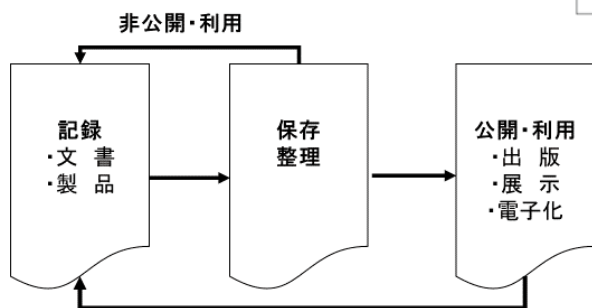
企業アーカイブズとして保存、整理されたものは、歴史的資料として保存されるだけでなく、企業にとって戦略的な経営資源として様々な形で活用される。例えば、企業アーカイブズは、意思決定、広報宣伝、ブランド戦略、製品開発、マーケティング、経営理念継承、教育研修、社史編纂、CSR、法務、リスク管理、説明責任、コンプライアンス、透明性確保などに活用され、多様な価値を生み出す (松崎, 2012, 2013)。

アーカイブズとしていったん収集された資料は編集され、資料集、社史などとして作成され、新たなアーカイブズとして蓄積される。

つまり、アーカイブズが情報として利用され、新たなプロダクツを生み出すプロセスまでを含めて、企業アーカイブズを見る視点が重要になる。そうして生み出されたプロダクツは、さらに、営業、広告、人材研修、企業文化の醸成、歴史研究など、多様な目的に活用される。ドキュメントとしての紙資料、生産物としてのモノ資料だけを見るのではなく、それらが情報として利用され、さらに生み出すものを含めて、企業アーカイブズを考える必要がある（高島，2008，2009）。

組織体の記録を保存するために組織内に設けられた組織アーカイブズを、記録が作成・取受された組織とは異なる外部の収集保存機関である収集アーカイブズと組み合わせていくと、記録が内部利用と外部利用を通じて、新たな記録を生み出すサイクルを形成することになる（松崎，2012）。特に、企業アーカイブズの場合、収集アーカイブズとして企業博物館などが有効に機能する可能性もつと考えられる。このプロセスを図式化すると、図表1のようになる。

図表1：企業アーカイブズの生成循環モデル



出典：筆者作成

2 企業博物館とは

企業博物館とはどのようなものか、代表的な研究としては図表2のように整理することができる（粟津，2013；高柳，2011）。

図表2：企業博物館の定義

著者	定義
Danilov(1991, 1992)	博物館の展示のような手法を通して、従業員や顧客、一般大衆に対して、企業の歴史や業務、関心事を伝えるための企業の施設。
Nissley & Casey(2002)	組織記憶として機能する企業博物館。
中牧(2003)	企業博物館は神殿であり、神聖化装置。
星合(2004)	自社の歴史とその背景の保存と企業理念の理解のために、企業(またはその業界)が設立した博物館(=企業のこと)が分かる博物館。
Stigliani & Ravasi(2007)	アイデンティティの伝達や魅力的な企業イメージ構築のツール。

出典：粟津（2013）、高柳（2011）に

基づき筆者作成

また、どのようなタイプの企業博物館があるか、星合（2004）は、図表3のような分類を提示している。

図表3：企業博物館の類型

類型	概要
史料館	設立会社の史料を中心に収集している館。
歴史館	関係する業界の歴史資料を集めた館。
技術館	企業の技術について説明する館。
啓蒙館	その会社や業界の、公共性や安全性を一般市民に分かりやすく普及啓蒙していく館。
産業館	工場見学や産業遺構を中心とした館。

出典：星合（2004）に基づいて筆者作成

その他、諸岡（2003）は、美術館系、博物館系、企業広報館系、文化ホール系に分類できるとしている。

企業博物館の多くは、企業の大切なもの、創業者の写真や創業時の事務所、初めて世に出した製品第一号機など、会社の宝物を展示することが多い。展示品の割合では、創業に関すること、製品に関することが一番多く、続いて、地域社会や学校に対するメッセージが多いという（星合，2004）。展示品の目的としては、図表4のようなものが挙げられている（高柳，粟津，2018）。

図表4：企業博物館の展示目的

展示目的	概要
娯楽施設	子供連れの家族や小中学生も楽しめる。
製品史の伝達	自社や業界の製品の歴史を伝える。
企業史の伝達	創業者や中興の祖など人物の歴史や事業化や企業の沿革を伝達する。
社会イメージ向上	企業の社会的存在意義や社会に対する貢献への理解を伝えて、社会からの好感を獲得する。
自社の現在状況の説明	取引先への情報伝達や商品の利用促進、製品工程の理解を深める。
自社の未来説明	企業の新技術の展示や解説、企業としてのビジョンを説明する。

出典：高柳、栗津（2018）に基づき筆者作成

企業博物館の運営部署については、総務部あるいは広報部が多く、CC（コーポレート・コミュニケーション）というところもあり、広報やコーポレートコミュニケーションの手段として捉えられていると考えられる。博物館では、資料収集や研究は学芸員によって行われるが、半分以上の企業博物館では学芸員が存在していない（高柳、栗津，2018）。

最近の動向としては、コーポレートコミュニケーションの視点から企業博物館を捉える動きがある（栗津、2013；高柳，2017）。企業はステークホルダーに対し、良好なレピュテーションを創造、維持し、社内外のコミュニケーション活動を行う。つまり、パブリックリレーション（PR）だけでなく、インターナショナルコミュニケーション（IC）としても活用される。さらに、マーケティングのツールとして活用される事例の考察もある（西川，2012；Piatkowska，2014）。

3 ウェルズファーゴ歴史博物館

(1) ウェルズファーゴの歴史

19世紀半ば、カリフォルニアに金鉱が発見されると、ゴールドラッシュが起きた。アメリカ東部と西部を結ぶビジネスの可能性から、1852年に、ヘンリー・ウェルズとウィリアム・ファーゴはサンフランシスコにウェルズファーゴを設立した。今や創業160年

を超える長寿企業の一つである。ウェルズファーゴは、小売業者や鉱山業者に対して、金融、宅配便、郵便配達などのサービスの提供を始めた。ウェルズファーゴは、そのサービスと公正さでコミュニティでのレピュテーションを高めていった。

1861年には、ウェルズファーゴは、アメリカ西部エリアで3,000マイル以上をカバーする世界最大の駅馬車ネットワーク網を構築した。ウェルズファーゴは、宅配業を提供し続け、荷物を配送するために、船、列車も活用し、世界中に荷物を届けていた。第一次世界大戦の1917年には、国内に80,000マイルの鉄道網に沿って10,000の拠点を築いていた。

第一次大戦後、アメリカ経済の急速な成長に対応して、小売業者や農業経営者に金融サービスを提供することでコミュニティの発展を支援した。ウェルズファーゴは、進取の精神をもち、つねに、技術革新を行い、新しいサービスの提供に取り組んできた。1970年には、いち早くATMの導入を図った。1995年には、インターネットバンキングを初めて提供し、2007年からは、モバイルバンキングを導入した。

このように、ヒト、モノ、カネの移動、取引のサービスを手広く提供するなかで、地域コミュニティの発展とともに、アメリカで最大の金融ネットワークを形成するに至っている（Chandler，2006；Wells Fargo History Museum，San Francisco，2018a）。

(2) 記録保存と展示の動き

このようにゴールドラッシュと西部開拓の時代に誕生したウェルズファーゴは、瞬く間に全米的な知名度を有する企業となった。そうしたこともあって、その記録を保全する価値を早くから認識しており、企業アーカイブズの設立と歴史博物館の創設の要因ともなっている。企業アーカイブズや同社の保有する

歴史的コレクションには、1852年3月18日にヘンリー・ウェルズとウィリアム・ファージによって作成された会社の設立趣意書や業務第1号となる150ドルの銀行手形などが含まれており、1852年7月13日の開業以来、ウェルズファージがゴールドラッシュへの出資者の資金移動を助け、その富の管理をした様子や、数百万の顧客に対していかに金融サービスの提供をしていったかを知ることができる。

また、ウェルズファージは、開業以来、数多くの銀行や企業を合併・吸収しており、そこには同社よりもはるかに古い歴史を有する会社も少なからず含まれる。例えば、1781年12月31日にフィラデルフィアで認可された北アメリカ銀行があるが、これはアメリカでも最も古い商業銀行である。この他、チャールストン銀行、フィラデルフィア第一銀行、ジョージア鉄道銀行、ボルティモア銀行といった黎明期の金融事業体の歴史もウェルズファージの遺産として受け継がれているとの認識である。

従って、同社の企業アーカイブズは、金融における成功と混乱、戦争、大恐慌、技術革新など、銀行業務の発展やアメリカ企業の成長における金融サービスの進化を、同社のあらゆる活動の面から記録した文書を有している。それは、単に西部開拓地の地域を結ぶ駅馬車による銀行と運輸業務の歴史にとどまらない、アメリカ各地・各時代における無数の物語を記した記録となっているのである(Wells Fargo Historical Services, 2011)。

ウェルズファージのアーカイブズはウェブサイトも開設している。そのトップページには次のような言葉が掲げられている。

ウェルズファージの企業アーカイブズは、当社の企業としての記憶です。さまざまなドキュメント、記念品、そして電子的記録を整理し大切に保管しています。これらは私たち企業の歴史に生命を与えるものであ

り、ウェルズファージという会社が奉仕してきたコミュニティに対してどのようなインパクトを与えたかに関して詳細な理解を提供します。

この言葉からもわかるとおり、ウェルズファージ・アーカイブズは単に企業の歴史を示すに留まるものではなく、企業を取り巻く社会や広くいってアメリカという国がどのように発展してきたかを示すこともめざしているのである。

(3) ウェルズファージ歴史博物館の概要

1893年にシカゴで開催された万国博覧会において、ウェルズファージは駅馬車とゴールドラッシュ時代の数々の貴重品を出品し、初の歴史展示を行っている。当時は駅馬車がいまだ現役とはいえ、工業化の進展が劇的な社会や生活の変化を予兆する様々な展示が出品されていた。そうした中であって、むしろこれまでのアメリカの商業の発展をウェルズファージが支えてきたという自覚と懐古的な誇りが展示品には込められていたようであり、これが後の歴史博物館設置の伏線となる。

企業アーカイブズとしては、内部資料を中心に保管、整理する組織アーカイブズと収集アーカイブズとして展示を行う歴史博物館がある。その博物館の歴史は古く、サンフランシスコの歴史博物館は1927年に設立され、90年以上の歴史を誇る。かつて用いていた駅馬車は、1920年代において銀行業務を宣伝する常套手段となっており、銀行役員が保有していた駅馬車を始めとするコレクションを本社の一室に展示したことが、現在の歴史博物館設立の契機となっている。1935年には、営業時間内に一般の見学者にも開放するようになる。同年には、年々増加する歴史資料から選んだものを、サンディエゴで開催された国際博覧会に出品し、150万の来場者がおなじみの駅馬車の車体や大陸横断鉄道完成

を記念した黄金の大釘などを見物したという。これらの展示品は1939年にサンフランシスコで開催された国際博覧会でも中心的な展示となった。

全米に支店網を張り巡らしているウェルズファーゴは、アンカレッジ（アラスカ州）、シャーロット（ノースカロライナ州）、サンフランシスコ（カリフォルニア州）、サクラメント（同）、ロサンゼルス（同）、サンディエゴ（同）、デモイン（アイオワ州）、ミネアポリス（ミネソタ州）、フェニックス（アリゾナ州）、ポートランド（オレゴン州）、フィラデルフィア（ペンシルベニア州）という11の都市に12の歴史博物館を展開している。サクラメントでは2つの博物館が存在している。

歴史博物館のスタッフとしては、マネジャー、学芸員、アシスタントがいて、展示については、アーキビストや歴史家のサポートを受けている。会社内の運営部署としては、ブランドエンゲージメント（brand engagement）部門に属し、遺産マーケティング（Heritage marketing）と美術館（Museums）が担当している。歴史博物館の訪問者には、学生、地域住民、国内外の旅行者を中心にして、社内のメンバーやその他のビジネス関係者も受け入れている。訪問者数は、各博物館によって異なるが、2017年にはサンフランシスコの博物館で約39,000人が訪問している。すべての博物館は無料であり、無料のガイド付きのツアー、レセプションのためのイベントスペース、多くのコミュニティのための公開プログラムを提供している。

歴史博物館の目的は、アメリカという国が発展するなかで会社が果たしたユニークな役割を示す機会を提供することにある。というのも、ウェルズファーゴの歴史それ自体が、安全、信頼、イノベーション、進歩の遺産と当社が各コミュニティへのコミットメン

トを示しているからとされている。1960年代半ばまでには、3台の駅馬車を含む収蔵品が、寄附や贈与、貸出しの形で8千点を超えるまでになる。そして、ウェルズファーゴの取締役会が、企業の歴史という資産を管理する常勤の専門職を設けることを決めたのは、1975年のことであった。その際、経営者は、単なる歴史コレクションにとどまらず、それをアーカイブズへと転換させ、アーカイブズや博物館における実践基準に基づき収蔵品を構成していくことを表明した。

所蔵物としては、美術品などのようにウェルズファーゴによってコレクションされたものと企業の活動の結果として蓄積された記録がある。コレクションとしては、時代、地理、芸術などの分野にわたる美術品を7,500点所蔵して、各コミュニティに展示している。サンフランシスコの本店には旗艦博物館として、ゴールドラッシュ時の開拓者に対して提供された金融、宅配事業の歴史を知る資料を中心に展示されている。展示品は、主に6つのカテゴリーに分けられ、第一が駅馬車の実物展示、第二が文書や筆記物で、合併した銀行から引き継いだ文書や1800年代に郵送した封筒と手紙類など、第三が歴史的写真で、創業者や従業員の写真やゴールドラッシュ当時の鉱山の様子などが含まれている。第四が骨董品・芸術品で、金庫や輸送用ケース、駅馬車護衛用の銃器、先住民の装束のほか、1908年に建築された全米農業銀行ビルなど幅広いものが含まれ、第五が通貨や金で、最初にウェルズファーゴが振り出した小切手も含まれる。そして、第六が様々な美術品コレクションである。これらの一部は歴史博物館に展示されているほか、写真集として出版されている。

企業アーカイブズは、ウェルズファーゴの企業記憶を保持する機関として、ドキュメント、文物、電子記録などを保管、整理している。それらの記録は、地域コミュニティに対して与えてきたインパクトを知ることができ

る貴重な資料となっている。企業アーカイブズの所蔵館は、一般に公開されていない。全体として所蔵されたもののなかから、ウェルズファーゴがサービスを提供するコミュニティに対して歴史博物館を通してその詳細を示していく形になっている。具体的には、駅馬車の歴史、銀行業、技術のイノベーション、大衆文化、ウェルズファーゴとそのパートナーの活動を知ることができる資料として実物、ドキュメント、写真などを所蔵している (Wells Fargo Historical Services, 2011; Wells Fargo History Museum, San Francisco, 2018b)。

(4) ウェルズファーゴ歴史博物館の展示内容

展示されているもののなかで、順に主要なものを紹介していく。1階と2階の二つのフロアがある。1階のフロアには、サンフランシスコの発展の様子がわかる年代ごとの絵地図やマップが展示されている。また、ウェルズファーゴの創業者であるヘンリー・ウェルズとウィリアム・ファーゴの肖像画があり、簡単なプロフィールが紹介されている。ヘンリー・ウェルズは、アメリカン・エクスプレスの初代の社長を1850年から1868年務めている。

写真1のように、展示のなかでもとりわけ目を引くのは、駅馬車の実物である。ウェルズファーゴを象徴する展示物であり、サンフランシスコの歴史博物館だけでなく、その他の都市でも中心的な展示物となっているようである。その場で駅馬車を背景に記念撮影をし、プリンターで印刷物を提供するサービスも行っている。

写真1：駅馬車と記念撮影用のカメラ

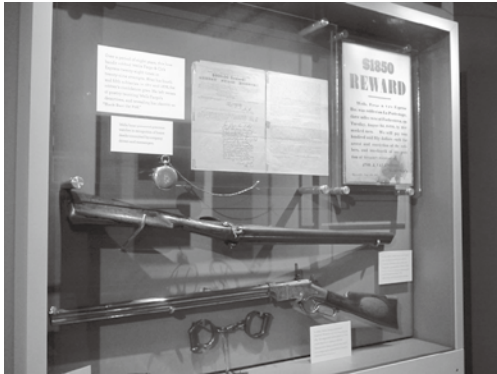


出典：筆者撮影

ウェルズファーゴは、全米に駅馬車のネットワークを張り巡らし、ヒトの移動だけでなく、荷物、現金、郵便を配達するサービスを提供していた。その他には、ゴールドラッシュ時の紙幣、コイン、金塊など、当時の状況を偲ばせる文物が数多く展示されている。先に紹介したように、展示されるものの中にはライフルやショットガンのような、いわば「物騒」なものも含まれる。金塊や小切手のような貴重な荷物を積み込んで大陸を走る駅馬車は当時、強盗団にとって格好の標的であった。展示されている銃器は、顧客から預かった貴重品をそうした強盗から守ろうとする会社の姿勢を示すものと見ることができる。しかし実際には駅馬車が強盗被害に遭うということは何度もあったようで、それを取り返すため

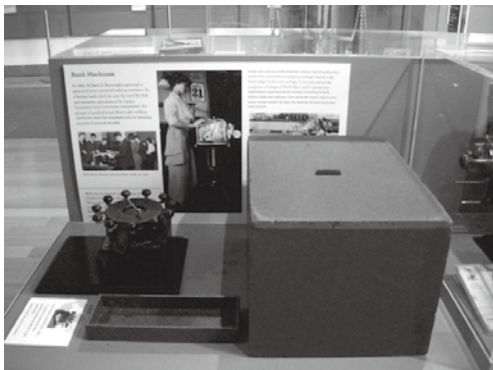
の懸賞金の告知が銃器と一緒に展示されている（写真2）。このように展示の端々には、会社の発展、西部の発展、そしてアメリカ経済の発展を関連させて理解できるような仕掛けが組み込まれており、これによってウェルズファーゴがコミュニティと共に歩んできたという印象を巧まずして来館者に与えることができていると言えよう。

写真2：護衛用の銃器と懸賞金の告知（右上）



また、2階のフロアには、ビジネスで利用しているものとして、宅配業の様子がわかるサンプルや伝票、銀行業務で利用される機械類、レジスター、メール、電信電話サービスに関する展示などがある。写真3は、新しい技術を取り入れて、銀行業務効率化を図ってきたウェルズファーゴを象徴する機械ということになると思われる。

写真3：バンクマシン



出典：筆者撮影

20世紀に入り、人・モノ・金・情報の流通が飛躍的に増大し、高速化した訳であるが、そうした技術的発展とともにウェルズファーゴも成長を遂げていった。その様子を流通と金融面においてどのように具体化していったかを知ることが、経済・社会における流通の役割を考えることにつながり、大変優れた教材ともなっている。

ほぼ毎日のように、小中学校の社会科見学の学生を受け入れていて、20人程度のグループが学芸員の説明を受けている。社会科見学の教材も作成されていて、展示を見ながら、質問に答えていくワークシートを利用することができる。

まとめ

企業アーカイブズ、企業博物館について論じた観点からウェルズファーゴ歴史博物館をレビューすると、以下のようなことを指摘することができる。

第一に、ウェルズファーゴの場合、組織アーカイブズとして、保存、整理されたものを内部利用とするだけでなく、歴史博物館を通じて外部公開することで、広く利用できるようになっている。第二に、企業博物館の類型としては、中心的には、史料館、歴史館の役割を担っていると考えられる。第三に、展示の目的としては、事業が地域コミュニティと密接に関わるビジネスということもあり、会社の歴史、創業者の歴史、製品やサービスを伝達していくことで地域コミュニティの歴史自体を伝えることにある。運営部署は、遺産を管理し、その価値をコミュニティに伝達することで、ブランドエンゲージメントを高めるマーケティングの役割も果たし、そのことを通じて社会イメージの向上も図られているといえるだろう。ウェルズファーゴ銀行がかつてのような運送業を営むことはないが、駅馬車を社名のロゴ

として用いることで、絶大な広報・宣伝活動に役立っている。2017年において、ブランド・ファイナンス (Brand Finance) 社の "Most Valuable Banking Brand in North America and Retail Banking" に選定され、また、フォーブス誌の "Third-Most Valuable Financial Services Brand in World" にも選定されているのも、そうした成果の表れであると考えられる。

全米で12館の歴史博物館を運営するウェルズファーゴは、地域コミュニティとの連携を重視し、地域コミュニティの発展とともに、事業の展開を図ってきたことを受けて、現在のようなアーカイブズとして定着してきたと思われる。日本では、2015年から三菱UFJ信託銀行が信託博物館を運営していて、信託 (trust) という仕組みがどのように社会に受け入れられ、定着してきたかという観点から資料の保存と展示を行っている。企業アーカイブズ、企業博物館のあり方を考える上で、貴重な試みであると思われる。合わせて、考察する意義があるといえるだろう。

今後の課題としては、企業アーカイブズと企業博物館の先進的な取り組みをさらに調査することで、企業アーカイブズ研究を深化させていきたいと考えている。

謝辞

この調査報告は、科学研究費基盤研究 (B)16H03705) の研究助成を受けている。ウェルズファーゴ歴史博物館では、Nelson Baltazar氏 (Museum Assistant, Wells Fargo History Museum) には展示についてインタビューに回答いただくとともに、Nancy Her 女史 (Museum Curator, Heritage Marketing and Museums, Wells Fargo Brand Engagement Department) にはメールで歴史博物館の概要についての質問に対応していただいた。また、この報告に関連する調査として、三菱UFJ信託銀行信託博物館と付属資料室を訪問した際には、信託博物館事務局長の友松義信氏に資料室をご案内いただくとともに、インタビューに回答をいただいた。記して、感謝申し上げます。

参考文献一覧

- 粟津重光 (2013) 「企業博物館の役割 ―新たなコンタクトポイントの知覚―」 AD STUDIES, Vol. 46, pp. 28-32.
- Chandler, R.J. (2006) *Images of America: Wells Fargo*, Arcadia Publishing.
- Danilov, V.J. (1991) *Corporate Museums, Galleries, and Visitor Centers: A Directory*, Greenwood Press.
- Danilov, V.J. (1992) *A Panning Guide for Corporate Museums, Galleries, and Visitor Centers*, Greenwood Press.
- 星合重男 (2004) 「日本の企業博物館の動向について」『レコード・マネジメント』No. 48, pp. 60-62.
- Logan, K. (2017) “An introduction to business archives”, Turton, A. (ed.), *The International Business Archives Handbook*, Routledge, pp.3-31.
- 松崎裕子 (2012) 「序章 世界のビジネス・アーカイブズ ―多様な価値を持つ、経営・業務に貢献するツール―」『世界のビジネス・アーカイブズ 企業価値の源泉』日外アソシエーツ, pp. 1-13.
- 松崎裕子 (2013) 「第1章 経営資源としてのアーカイブズ」『企業アーカイブズの理論と実践』丸善プラネット, pp. 3-18.
- 中牧弘允 (2003) 「第1章 会社の神殿としての企業博物館 ―序論をかねて―」中牧弘允・日置弘一郎編『企業博物館の経営人類学』東方出版, pp. 19-36.
- 西川康男 (2012) 「資生堂企業資料における企業アーカイブズの戦略的取り組み」『情報の科学と技術』第62巻第10号, pp. 440-444.
- Nissley, N. & Casey, A. (2002) “The politics of the exhibition: Viewing corporate museums through the paradigmatic lens of organizational memory”, *British Journal of Management*, Vol. 13, pp. 36-45.
- Piatkowska, K.K. (2014) “The corporate museum: A new type of museum created as a component of marketing company”, *International Journal of the Inclusive Museum*, Vol. 6, No. 2, pp. 29-37.
- Stigliani, L. & Ravasi, D. (2007) “Organizational artifacts and the expression of identity in corporate museums at Alfa -Romeo, Kartell, and Piaggio, ” in Lerpold, L., Ravasi, D., Rekom, L. van, and Soenen, G. (eds.) *Organizational Identity in Practice*, Routledge, pp. 197-214.
- 高島正憲 (2008) 「『アーカイブって何?』 ―アーカイブの多様性について考える―」『レコード・マネジメント』No. 56, pp. 3-9.
- 高島正憲 (2009) 「企業におけるアーカイブの系譜と存在 ―企業資料の活用を実践する場として―」『レコード・マネジメント』No. 57, pp. 45-56.
- 高柳直弥 (2017) 「企業のコミュニケーション活動の調和とインターナル・ブランディング型の企業博物館運営」『豊橋創造大学紀要』第21号, pp. 1-17.
- 高柳直弥 (2011) 「『企業博物館』の成立と普及に関する考察」『大阪市大論集』第128号, pp. 47-68.
- 高柳直弥・粟津重光 (2018) 「日本における企業博物館の運営に関する実態調査」豊橋創造大学紀要、第22号, pp. 1-18.
- Wells Fargo Historical Services (2011), *Time Well Kept: Selections from the Wells Fargo Corporate Archives*, The Donning Company Publishers.
- Wells Fargo History Museum, San Francisco (2018a) “Wells Fargo History Museum curriculum guide”, <https://www.wellsfargohistory.com/resources/1226036-sf-museum-teacher-curriculum-fin.pdf> (2018年7月10日閲覧) .
- Wells Fargo History Museum, San Francisco

(2018b) “Wells Fargo History”, <https://www.wellsfargohistory.com/> (2018年7月10日閲覧)